

# 人における「想像」「想像力」とは

発達クリニックぱすてる 東條恵

2021年4月 20 日

## はじめに

今回、人における「想像」や「想像力」について考えてみました。

私達にとって、「想像」とはいかなる事なのでしょう。「構想力と想像力」(半田智久著一ひつじ書房 2013年)というかなり分厚い本をちらちらと読んでみて、なるほどと思ったこと、学んだことがあります。今回はこのことを記載しようと思います。

## 知覚・記憶・想像

想像は、知覚や記憶の想起と深く関わっているとされます。模式的に図示すれば、図のごとくと指摘されています(半田氏の図を私が模写)。ある小説を読み、場面の風景、出ている人物の動きを想像するということは、それまでに蓄積されている過去の記憶を利用するはずで、「無」から「有」は生まれません。外界からの刺激を通して、その人が求めているであろう必要な記憶情報が想起され、それを使って新たな空間・登場人物・建物などや時間の流れを頭の中で創ることが想像のほうです。

想像された世界には、人がおり、建築物があり、自然があるでしょう。そしてこれらは瞬時に映像が出てくるように感じます。出てくるというより、そこにあります。「記憶を引き出し組み合わせ合成して・・・」というプロセスにかかる時間的イメージがないほどに、即出てきます。そして意外に音は出てこなく、無音のようです。風景・建物・人物は、それぞれの輪郭がぼんやりした映像ですが、確かにそこにあります。これは脳が作り出しているもので、「想像」の産物です。

小説「十二国記」を二度読みすることを通して、見えてくる世界があります。文字を通して見えてくる世界は、二度目に詳細に読むことで、文字を通しての風景なり、建物なり、人物の着物なりが徐々に明瞭になっていくのでした。面白い体験でした。文字そして文章によって、情報が脳内に入ることによって、より詳細な明瞭な映像を惹起するのですから。

「想像は知覚や記憶に従属した副産物ではなく、知覚とも記憶とも独立した心の過程としてそれ独自の純粋な過程と産物を認めうる」、「知覚や記憶と想像のコラボレーションはそれゆえに錯覚から幻覚、幻想、妄想へと境界設定の困難な通路ももたらししている」という表現を文章から抜き出してみました。なんとなく、分かるような気がしますが、すっきりと理解できているわけではありません。この図もまだ理解できていません。知覚の位置づけが理解できていません。

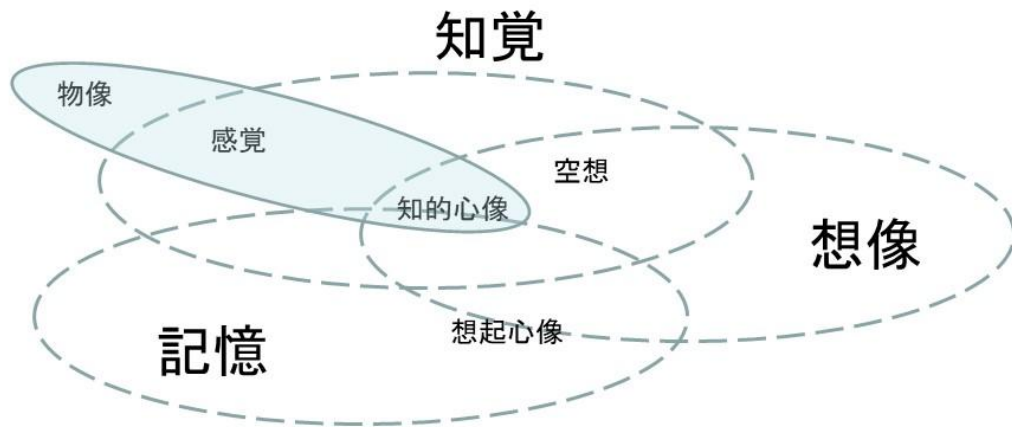


図 想起と知覚と記憶の関係

### 想像の分類

さて、「想像」の分類が議論されてきたことを、本書を通して学びました。想像の分類としては、①受動想像がまずあります。これは、「外発的、受け身」でなされる想像です。「他者の想像力の産物である小説を読み、その作品に沿ってたどる場合でも、読者は想像力無しにそれを行うことはできない。その場合にはたらく他者の想像以上に付き合える受身の想像のことを受動想像というわけである。そうした想像のありようを想定すれば、優れた書き手とは読者の受動想像の仕方を想像しながら、それとの距離感を意識しつつ自らの想像をなしていく才を発揮する人と見ることができるであろう」という半田氏の記載は、受動想像をイメージするに役立つ文章と思います。

②能動想像とは、内発的に生成される想像のことです。「能動想像は、たとえ他者の想像に喚起されたとしても、その想像にとらわれずに自分独自の想像をめぐらせるような創造である。想像の中でも時に自由性を取得しようとする空想は基本的に能動想像であるし、およそあらゆる創作はその作品のオリジナリティーにおいて能動想像の所産である」とあります。自分で組み立てる空想、ファンタジーの世界は能動想像でしょう。

再生想像、産出想像という言葉・分類も、紹介されていました。再生想像とは受動想像でしょうし、算出想像は能動想像とほぼ一致するのだろうと考えました。

小説を読んで、風景や建物が出るのは、受動想像が主かも、でもそこに登場する人物が動きだすと、それは露骨に能動想像かも・・と考えてみましたが、どんなでしょう。

## **最後に**

これまで、想像するということは、過去の記憶を利用するのだろうとまでは考えることはできていましたが、何か足りないと感じていました。新たな視点を得ることが、読書を通してできました。また、人類が考えてきたことの一部を少し辿ることができた気がします。感謝です。